

# 令和4年度 事業報告

## 岡山理科大学附属高等学校

令和4年度は、新学習指導要領が新生徒に全面導入される高校教育改革の節目の年です。また、本年度は、加計学園全体が一体となって定めたビジョン2026を実行に移す年であります。このビジョンを着実に実現していくために、本年度の事業計画に取り組みました。



予測不能なこれからの社会をたくましく生きる若者を育むためには、従来の知識・技能を受動的に修得させる教育では不十分です。このため、新学習指導要領が導入され、①生きて働く知識・技能の習得、②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養を3つの柱とする、幼稚園から高校までの一貫した教育改革が進められています。本年度は、中学校まで新しい教育を受けてきた生徒が、高校に入学し、新しい学習指導要領に基づく教育を開始しました。

本校は、4年前から、特徴のある4つの教育コース（グローバルサイエンス、総合進学、スポーツサイエンス、国際バカロレア）を設立してきました。本年度も、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出す」という建学の理念に基づき、それぞれの教育コースが、社会を牽引できる人材の養成を目的に、独自の育成目標を掲げ、それを達成するための教育プログラムを実施しました。グローバルサイエンス、総合進学、スポーツサイエンスにおいては、加計学園（岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、岡山理科大学専門学校）との連携教育により、多様で深い学びを提供しました。国際バカロレアでは、国際的な基準に従った教育を実施し、最終試験に合格してディプロマ資格を獲得したコースの第1期生を輩出しました。具体的には、設定した今年度の事業計画に従い、次に掲げる項目に重点を置いた教育活動と学校運営を展開しました。

### I. 教育の推進

- 1) 加計学園全体の教育資源を有機的に活用した質の高い教育の提供と進路の開発
- 2) 世界が認めるグローバル人材を育む国際バカロレア教育の推進
- 3) 時代の要請に応える国際的な通信制教育の展開

### II. 生徒の支援

- 1) 生徒の多様な資質や希望に応えるコース設計
- 2) 生徒支援・指導体制の充実

### III. 地域社会との連携

### IV. 国際理解と国際貢献

### V. DXの推進

### VI. ガバナンス体制と内部質保証システム

岡山理科大学附属高等学校 校長 田原 誠

## I. 教育の推進

### 1. 質の高い教育の提供に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[1] 質の高い教育の提供に関する計画</p> <p>1) 加計学園の高等教育機関と各教育コースとの連携について、その実施方法等を評価・検討しながら推進する。</p>	<p>[1] 加計学園の高等教育機関との連携による質の高い教育の提供</p> <p>関連校の大学の講義等を履修するカリキュラムにより、学問的な発展などに興味を抱かせる。さらに、本校での教育を大学での単位認定取得につなげることで、連携大学への進学を導く。また、生徒が大学の教育研究に触れることで、生徒一人ひとりの能力・適性や自己の発見と成長に繋げる。</p> <p>岡山理科大学との連携体制の構築のために、高大接続担当を置き、円滑な活動を進める。</p> <p>さらに、岡山理科大学との高大連携の中心であるグローバルサイエンスコース1年次、2年次のサイエンスワーク（大学聴講）、2年次、3年次のゼミ活動については、開講科目の増加による充実を図る。</p>	<p>[1] 加計学園の高等教育機関との連携による質の高い教育の提供</p> <p>グローバルサイエンスコースに高大連携教育プログラムとして設計したサイエンスワークでは、1年次の大学教員による授業で、高校での学びと大学教育での発展性等を認識させた。さらに、2年次では大学の授業聴講とゼミ活動に参加しての研究、3年次では大学の研究室でのゼミ活動とその成果発表などにより、大学の学びをより深く理解させるとともに、これらの活動に必要な思考力や対話能力の発展に結びつけた。岡山理科大学との高大接続については、担当を置き、連携プログラムの精査とさらなる発展をめざしている。</p> <p>また、スポーツサイエンスコースでは倉敷芸術科学大学、総合進学コースでは、岡山理科大学専門学校との間で、関係する専門分野での実習活動等を行っている。</p>	A
<p>2) 新しい学力観の養成に即した教育方法や、ICT を活用した授業方法の導入を進める。</p>	<p>[2] 新しい学力観の養成に即した教育方法</p> <p>教員一人ひとりが、教科教育の専門性を高め、授業の質的改善を行い、生徒の基礎・基本的な学力を定着させ、生徒に応じた細やかな教育指導を行う。さらに、発表や討論の時間を設定し、対話的な協働学習を進めるなどの実践的な協働教育の充実を図り、生徒が意欲的に学習できる環境の構築に努める。</p>	<p>[2] 新しい学力観の養成に即した教育方法</p> <p>新入生を対象に新学習指導要領による教育活動が開始された。今回の要領改正では学力観とその授業評価の方法に大きな改正が見られたので、本年度は求められる評価方法を教員が適切に実施できるように教員に研修を行ってきた。</p> <p>グループ活動やプレゼンテーションを授業に取り入れていくため、1コマ当たりの授業時間を100分にしているが、本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、協働学習活動は控えた。代わりに、生徒の個々の学習活動で、個人的な見解をまとめ発表させる指導に切り替えた。</p>	C

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
	<p><b>[3] ICT 活用教育の推進</b></p> <p>Classi の機能を授業や復習などの学習活動に活用する、iPad で授業を行うなど、ICT を活用した教授法を研究し、授業中に実践的、体感的な活動が生まれるように努める。積極的に校内外の研修に参加し、整備されているインターネット環境を有効活用する。昨年度（令和3年度）、新型コロナウイルス感染症による休校時に実施したオンライン授業について検証し、ICT 教育の改善に活用する。</p>	<p><b>[3] ICT 活用教育の推進</b></p> <p>年度始めの職員会議において、本校のネットワークを活用する方法を全教員に徹底するとともに、生徒が所有するiPad またはPC を使い、共同学習、オンライン教材での学習、ポートフォリオの作成と保存、課題提出等の他、Classi を利用した HR 活動や連絡、アンケート調査などを実施している。</p>	C
3) 教育改善の効果を、大学進学や進路の開拓、各種資格の獲得などで指標化して確認する。	<p><b>[4] 進学指導プログラムの充実</b></p> <p>外部テストのデータを活用し、進路目標に合わせた学習到達目標を設定して指導を進め、今までの進路実績と比較検証する。</p>	<p><b>[4] 進学指導プログラムの充実</b></p> <p>校外模試などの外部テストについては、各コースで生徒の現状にあう学習到達目標へ向け、基礎学力の向上、志望校のレベルへの到達など生徒個々のレベルでの学力アップに努めた。さらに、進学指導の際の基礎資料として最大限に利用した。</p>	B

## 2. 国際バカロレア教育推進の目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p><b>[2] 国際バカロレア教育の推進</b></p> <p>1) 国際バカロレア教育で大きく育つ入学生の確保を進める。</p>	<p><b>[5] 国際バカロレア教育 (IB) 入学生の確保</b></p> <p>国際バカロレア教育 (IB) について理解を得るための広報活動を展開する。この際、文部科学省 IB 教育推進コンソーシアムと連携した普及活動を展開する。</p> <p>他の IB 校と共同して、海外日本人学校などで募集活動を実施する。</p>	<p><b>[5] 国際バカロレア教育 (IB) 入学生の確保</b></p> <p>新型コロナウイルス感染防止の観点から、対面による広報活動はオープンスクールなどの場に限定した。</p> <p>教員に文部科学省 IB 教育推進コンソーシアムのファシリテーター担当がいて、その立場からの情報発信、また、ロータリクラブなどでの講演により、国際バカロレア教育の認知を高める活動を実施した。</p>	B
2) 定期的な研鑽機会の確保等により、担当教員の指導力の向上を進める。	<p><b>[6] 国際バカロレア教育担当教員の定期的な研鑽機会の確保</b></p> <p>国際バカロレア機構 (IBO) 開催の教員研修会へ定期的に参加する。</p> <p>IBO 主催の支援プログラム (PSP2020 言語学習支援プロジェクト) の参画により、教員や管理職の間で協議検討する機会を設定し、IB 教育の充実を図る。</p>	<p><b>[6] 国際バカロレア教育担当教員の定期的な研鑽機会の確保</b></p> <p>IBO 主催の言語学習支援プロジェクト (PSP2020) に学校として参画し、IB 担当教員全員が、1 年間に渡り、IB 教育の基本と教育方法などについて指導を受けて実践した。</p>	S

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
3) 国際バカロレアの教育方法についての校内教員研修（他コース担当教員対象）を進める。	<b>[7] 国際バカロレア教育担当教員による校内での教員研修</b> PSP2020 プロジェクトなどにより、IB教員と他コース教員間の情報交換や研修を進める。	<b>[7] 国際バカロレア教育担当教員による校内での教員研修</b> IB 授業担当教員は、毎週定期的に会合して、教育方針の検討や情報交換を行っている。IB コース以外の所属の教員も IB 授業を担当しており、これにより IB 的な教育法の普及を進めている。	B

### 3. 国際的な通信制教育の展開の目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<b>[3] 国際的な通信制教育の展開の計画</b> 多様な学習者の学びのニーズを評価・検討し、教育プログラムの向上を進める。	<b>[8] 国際的な通信制教育の展開</b> 時代の要請に応える国際的な通信制教育を構築していくために、学びのニーズや新たな学びの方法などを検討・検証する。	<b>[8] 国際的な通信制教育の展開</b> 海外からも教育を受けることができる通信制教育の特徴をさらに生かすために、中国などの教育担当者と共同して学びのニーズや学びの内容などについて検証を進めた。	B

## II. 生徒の支援

### 1. 生徒の多様な将来像に応えるための目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[4] 生徒の多様な将来像に応えるための計画</p> <p>生徒が持つ将来像について、体系的に学習し、体験する機会を提供し、各自のキャリア実現に求められる学力や能力を育成する。</p>	<p>[9] 生徒の多様な将来像に応えるための方策</p> <p>自主活動期間や長期休業中におけるキャリア教育の一環として、職場訪問を実施する。このような多様な社会体験により、社会人として必要な知識や技能を身につけ、実社会で生き抜くために役立つ多様な能力を養成する。</p>	<p>[9] 生徒の多様な将来像に応えるための方策</p> <p>新型コロナウイルス感染症のため、職場訪問は実施しなかった。代わりに、1年生を対象に、講師を招いて職業についての理解を深める共同学習を実施した。</p>	C

### 2. 多様な生徒の支援に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[5] 多様な生徒の支援に関する計画</p> <p>健康管理や学校生活及び家庭生活における具体的な相談や指導に対応するため、生活支援体制を更に充実させる。</p>	<p>[10] 教育相談体制の充実</p> <p>多様な生徒のニーズに応じた細やかな教育指導と生活指導の充実を図る。</p> <p>生徒一人ひとりの養育歴や家庭環境に配慮し、保護者と連絡を取り合い、最適な指導方法を研究する。また、担任は教育相談室や外部機関と連携をとりながら生徒を見守る。更に複数相談員の体制を整える。</p>	<p>[10] 教育相談体制の充実</p> <p>教育相談室長の下、カウンセラー二人体制で相談を実施した。新型コロナウイルス感染症による全校での休業期間がなかったために、相談件数は増加した。ケースごとに相談の内容を十分理解して対応した。担任・コース(学年)管理職・保健室・相談室がチームとなり、保護者と密に連絡をとりながら対応していくことで早期解決に努めた。</p>	B

## III. 地域社会との連携

### 1. 良好な社会的関係構築に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[6] 良好な社会的関係構築に関する計画</p> <p>学校行事への招待などによる地域交流、校外清掃などボランティア活動等、地域コミュニティとの関係を維持・発展させる活動を行う。</p>	<p>[11] 良好な社会的関係構築を図る方策</p> <p>授業を設定せずに様々な活動に充てることのできる自主活動期間を中心に、福祉施設や校外清掃活動など、ボランティア活動の場を提供する。家庭と協力し、県や市が主催するコミュニティー活動、地元の町内会活動など校外の諸活動への積極的な参加を促し、社会の一員としての意識を醸成する。</p>	<p>[11] 良好な社会的関係構築を図る方策</p> <p>新型コロナウイルス感染症のため、文化祭における地元住民を招いての交流活動や計画していた施設訪問も実施しなかった。グローバルサイエンスコースでは、通学路の一斉清掃を7月、3月に実施した。また、通学時に、岡山駅や交差点でのマナー遵守を指導する活動をおこなっている。</p>	B

## 2. 地域教育の目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[7] 地域教育の計画</p> <p>校外清掃などボランティア活動や企業の見学実習などを行う。</p>	<p>[12] 提携企業等と連携した教育の提供</p> <p>自主活動期間や長期休業中におけるキャリア教育の一環として職場訪問を計画する。このような多様な社会体験により、社会人として必要な知識や技能を身につけ、実社会で生き抜くために役立つ多様な能力を養成する。</p>	<p>[12] 提携企業等と連携した教育の提供</p> <p>本年度も、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、職場訪問や企業の見学実習は実施しなかった。代わりに、1年生を対象に、講師を招いて職業についての理解を深める共同学習を実施した。</p>	C
	<p>[13] 国際バカロレア (IB) 教育プログラムの導入</p> <p>国際バカロレア教育のコアとなる「創造性・活動・奉仕」活動に倣い、他のコースにも一定のボランティア活動時間を卒業要件に加えるべく検討する。</p>	<p>[13] 国際バカロレア (IB) 教育プログラムの導入</p> <p>新型コロナウイルス感染症蔓延などにより、対外的に活動する機会が限られていたことなどから検討は行わなかった。</p>	D

## IV. 国際化の推進

### 1. 国際理解と異文化交流の目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[8] 国際理解と異文化交流の計画</p> <p>交流協定による教育プロジェクト、生徒の海外研修などを実施する。</p>	<p>[14] 交流協定校との交流</p> <p>国際理解に重点を置き、異文化交流に積極的に取り組む。生徒に国際的感覚を身近に感じさせるために、留学生を可能な限り受け入れ、また、海外校との交流協定を締結し、留学制度を確立させる。交流協定により訪問を受ける外国からの研修団との交流、関連大学の留学生との交流などの機会に、生徒を積極的に活動させることによって、異文化交流を推進する。なお、新型コロナウイルス感染症に伴う出入国の制限に対応するために、必要性に応じて、昨年度（令和3年度）に実施したオンラインによる交流を発展させる。</p>	<p>[14] 交流協定校との交流</p> <p>今年度も昨年度と同様新型コロナウイルス感染症蔓延のため海外の交流協定校との往来は実現しなかった。オンラインでの交流では、フィリピン・バギオ大学附属高校の生徒とIBコース1・2年生との協働学習、また、韓国・木洞高校と総合進学コース2年生との文化交流を実施した。</p> <p>なお、感染症の流行が収まった年度末には、オーストラリア・ケアンズ研修旅行実施した。</p>	C

### 2. 国際的な教育の目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[9] 国際的な教育の計画</p> <p>対象国での広報活動の展開と生徒の受け入れを行う。</p>	<p>[15] 国際的な教育の推進</p> <p>通信教育により海外での生徒を募集する加計学園の関連校（学校法人英数学館など）と共同で広報活動を展開し、生徒の確保を図る。</p>	<p>[15] 国際的な教育の推進</p> <p>海外での生徒を募集する加計学園の通信制高校や加計学園国際交流局の協力を得て、広報活動を展開し、生徒の確保に努めた。</p>	B

## V. DXの推進

### 1. ICT活用に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[10] ICT活用に関する計画</p> <p>ICT活用推進のためのFD実施及び各種証明書の申請手続きのweb化を図る。</p>	<p>[16] ICT活用に関する方策</p> <p>ICTに関して、年間2回の教職員活動を実施する。</p> <p>各種証明書の申請手続きweb化のための方法を調査し、比較検証する。</p>	<p>[16] ICT活用に関する方策</p> <p>ICTに関して、年度始めの職員会議において、利用の手引きを配布し、本校のネットワークを活用する方法を全教員に徹底した。</p> <p>各種証明書の申請手続きなどを含めた事務的な作業の電子化には、学園として共通のプラットフォームの構築が重要であるとの結論に至った。</p>	C

## VI. ガバナンス体制と内部質保証システム

### 1. 学校運営の改善及び効率化に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[11] 学校運営の改善及び効率化に関する計画</p> <p>校長がリーダーシップを発揮できる環境を充実させるため組織及び運営の改善を継続的・恒常的に実施する。</p>	<p>[17] 学校運営会議の強化</p> <p>教育職員と事務職員が一体となり、附属高校の方向性を共有するために、運営会議や教科会議などを定期的に開催し、協議した内容を全校の職員会議に諮る強力な運営体制を維持継続する。さらに、校務組織を簡素化して全員が校務運営に参画できるように改革し、構成員の意識の向上に努める。</p> <p>学校運営会議を毎週行い、学校を取り巻く現状を報告、確認することによって、必要な措置を講じる。</p>	<p>[17] 学校運営会議の強化</p> <p>校長、教頭、事務部長、並びに校務分掌の課長で組織する運営会議において、中学校の校務分掌課長を加えて中高合同で行う会議を隔週ごとに実施した。これにより、中学校と高等学校間で情報の交換と連絡調整を進め、効率的で統一された方針による学校運営を進めた。学校運営会議での検討事項は職員会議に諮り、業務について教職員全員で共通理解を得られるようにした。</p>	B
	<p>[18] 教科会議の強化・連携</p> <p>教科会議を定期的に開催し、議事録によって検討事項、決定事項を校長、教頭に報告する。</p>	<p>[18] 教科会議の強化・連携</p> <p>教科会議を定期的に開催し、議事録を学内サーバーに上げて、管理職を含め、教職員との情報共有を図った。</p>	B
	<p>[19] 情報共有の強化</p> <p>職員会議以外にも、メールによって、教職員間の情報共有を図る。</p>	<p>[19] 情報共有の強化</p> <p>教職員への連絡事項は、職員朝礼、学内メール、Classi を利用し、情報共有を図った。</p>	B
	<p>[20] 校務横断的な取組み</p> <p>複数の校務分掌を担当することによって、業務の理解及び業務の分散化を図る。</p>	<p>[20] 校務横断的な取組み</p> <p>教員は主たる分掌分野に加えて、補助的に業務を担当する分野に所属し、業務の理解及び業務の分散化を図っている。</p>	B

## 2. 教育の質保証に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p><b>[12] 教育の質保証に関する計画</b></p> <p>アクティブラーニングの導入やIB教育の理念を取り入れた授業を実施することにより効果的な教育方法・教育内容を充実させる。</p>	<p><b>[21] 教職員の資質向上への取組み</b></p> <p>学校現場で必要となるリーダーシップ性を向上させるために、各種の研修やワークショップ等へ参加させることで、個々のスキルアップを図り、組織の一員として自己の確立へ導く。</p> <p>国際バカロレアや新たな大学入試に関係する研修に加え、新学習指導要領に係る研修へ積極的に参加する。</p> <p>外部団体主催の教科指導に係る研修を重要視し、研修への参加を強く勧める。</p> <p>研修で得た情報は、職員会議や校内ワークショップにて全教職員で共有する。</p>	<p><b>[21] 教職員の資質向上への取組み</b></p> <p>今年度も年度当初から新型コロナウイルス感染症蔓延により、各種の研修やワークショップの予定が設定されなかったために、計画的な参加が困難な状況にあり、研修への参加は限定された。</p>	C

## 3. 教育の質保証に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p><b>[13] 内部質保証に関する計画</b></p> <p>内部質保証を充実させ、組織運営の改善に活用するため、的確な評価指標を設定し、適正な個人評価（教員活動評価）を実施する。</p>	<p><b>[22] 学校運営会議の強化</b></p> <p>教育職員と事務職員が一体となり、附属高校の方向性を共有するために、運営会議や教科会議などを定期的開催するとともに、自己点検及び外部評価を実施する。</p>	<p><b>[22] 学校運営会議の強化</b></p> <p>校務分掌やコースなど各部署が業務を能動的に立案し、学校運営会議で検討し、職員会議に諮る、という流れを遵守し、業務について教職員全員で共通理解を得られるようにした。学校運営全般については、毎年度末に保護者全体に依頼する学校調査アンケートの結果を第三者の評価として活用している。</p>	B
	<p><b>[23] 教科会議の強化</b></p> <p>教科指導に関しては、教科主任が中心となり授業研究を進める。</p>	<p><b>[23] 教科会議の強化</b></p> <p>教科会議は各教科において定期的開催し、授業運営の円滑化や授業の改善に努めた</p>	C
	<p><b>[24] 授業評価による授業の改善</b></p> <p>年数回、教頭、教頭補佐等によって授業評価を行い、教育の内容と教員指導力の改善などを進める。</p> <p>年数回、生徒による授業評価を実施し、授業担当者による効果的な授業の進め方を検討する。（非常勤講師を含め全教員対象として実施予定）</p>	<p><b>[24] 授業評価による授業の改善</b></p> <p>授業時間数と授業進度の確保を最優先しているため、授業評価は行わなかった。来年度は、全校を上げての研究授業の実施を検討したい。</p>	D



#### 4. 財政基盤の強化に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p><b>[14] 財政基盤の強化に関する計画</b></p> <p>経費を抑制するため財務情報等を活用し、財務分析を行うことにより業務の現状を検証し資源配分の重点化や経費削減など、より一層の効率化を実現する。</p>	<p><b>[25] 財政基盤の強化</b></p> <p>学校運営を行うために、定員の確保を最優先課題として受験生のニーズに沿った募集活動を展開するとともに、体力のある組織を構築するために、改革と削減に加えて選択と集中により、人件費、教育研究経費、管理経費の全体適正に取り組む。</p>	<p><b>[25] 財政基盤の強化</b></p> <p>今年度も新型コロナウイルス感染症蔓延のために、オープンスクールへの参加者を限定するなどの措置が必要であったが、ほとんどのイベントで満席の状態が実現した。入試においても、受験者数は過去6年間で最も多く、令和5年度の入学者数も最も多かった。</p> <p>岡山理科大学を含む関連大学・専門学校との連携のアピールが入学者数の増加に繋がったと見られ、来年度も引き続きアピールしたい。</p>	B

※評価欄は各事業の達成度及び成果を自己評価したもの。

S：目標以上の成果（105%～）    A：目標を達成（100～104%）    B：目標をほぼ達成（90～99%）  
 C：課題が残る（70～89%）        D：未達・未実施（～70%）

主な行事予定	
4月8日	始業式
4月9日	入学式
4月17日	前期入学式（通信）
5月14日	PTA 総会
7月17日	後援会総会（通信）
7月19日	全校集会
9月1日	全校集会
9月18日	前期卒業式（通信）
9月22日	体育祭
10月2日	後期入学式（通信）
10月7日	文化祭
12月23日	全校集会
1月7日	県外生入試
1月26日、27日	選抜1期入試
2月20日	選抜2期入試
3月1日	卒業式
3月12日	後期卒業式（通信）
3月17日	終業式

## 学生数・教職員数

### ■在籍生徒数

(令和4年5月1日現在)

課程・学科・コース名			入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
全 日 制 課 程	普 通 科	グローバルサイエンスコース	100	295	1,200	804
		総合進学コース	200			
		スポーツサイエンスコース	80			
		国際バカロレアコース	20			
	全日制課程 計		400	295	1,200	804
通信制課程 (広域) 普通科					600	79
総 合 計			400	295	1,800	883

(単位：人)

### ■卒業生数等一覧

(令和4年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学希望者 C	進学者 D	進学率 D/C
全日制課程	251名	30名	30名	100%	216名	203名	94%
通信制課程	27名	—	—	—	—	9名	33%

主な入試合格大学 ( ):人数	<p>国公立大学：岡山大学 (2)、金沢大学 (1)、香川大学 (1)、九州工業大学 (2)、鹿児島大学 (2)、岡山県立大学 (1)、横浜市立大学 (1)</p> <p>関連大学：岡山理科大学(47)、倉敷芸術科学大学 (11)、吉備国際大学(4)</p> <p>私立大学：青山学院大学 (1)、桜美林大学 (1)、駒澤大学 (3)、帝京大学 (1)、東海大学 (2)、東京理科大学 (1)、東洋大学 (1)、日本大学 (1)、法政大学 (2)、明治大学 (1)、立教大学 (1)、京都外国語大学 (3)、京都産業大学 (1)、同志社大学 (3)、立命館大学 (2)、龍谷大学 (1)、大阪産業大学 (3)、大阪体育大学 (2)、関西大学 (3)、近畿大学 (5)、関西学院大学 (1)、甲南大学 (1)、神戸学院大学 (3)、神戸女学院大学 (1)、川崎医療福祉大学 (5)、くらしき作陽大学 (2)、山陽学園大学 (5)、就実大学 (3)、清心女子大学 (1)、中国学園大学 (1)、環太平洋大学 (1)、広島経済大学 (3)、広島修道大学 (1)、松山大学 (2)、九州共立大学 (1)、日本経済大学 (2)、第一薬科大学 (1)、西日本工業大学 (1)、立命館アジア太平洋大学 (3)</p>
主な就職先	<p>(県内) クラレテクノ(株)岡山営業所、(株)桂スチール、いすゞ自動車中国四国(株)、JFE ロックファイバー(株)、カーツ(株)、トータル物流(株)、備南工業(株)、光軽金属工業(株) [公務員]、オカネツ金属工業(株)、シーアール物流(株)、一般社団法人岡山歯科医師会</p> <p>(県外) アオイ電子(株)、ジェイアンドケー</p>

### ■教職員数

(令和4年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員 計	事務職員
1	2	53	56	11

(単位：人)

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和4年度 予算額	令和4年度 決算額
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	518,022	502,862
		経常費等補助金	251,329	267,878
		その他収入	40,171	43,468
		計	809,522	814,208
	支出	人件費	729,884	728,789
教育研究経費		267,080	265,063	
管理経費		115,503	122,056	
その他支出		0	0	
	計	1,112,467	1,115,907	
教育活動収支差額			△ 302,945	△ 301,700
教活外	収入	受取利息等	0	2
	支出	借入金利息等	3,796	3,796
	教育活動外収支差額		△ 3,796	△ 3,794
経常収支差額			△ 306,741	△ 305,494
特別	収入	資産売却差額等	0	1,500
	支出	資産処分差額等	0	914
	特別収支差額		0	586
基本金組入前収支差額			△ 306,741	△ 304,908
基本金組入額合計			△ 48,975	△ 191,217
当年度収支差額			△ 355,716	△ 496,125

### ■財務改善に向けた取組

今後、岡山県内の15歳人口が急速に減少することを踏まえ、安定的な学校運営を行うためには定員の確保が最優先課題であり、受験生のニーズに沿った募集活動はもとより、在校生の満足度を上げる必要があると考えます。募集活動の一環として、全国初となるアーバンスポーツ部を設立しました。さらに過去3年間で着実に増加してきている入学生数をさらに増加させるため、引き続き本校の教育活動並びに教育内容を多角的に伝え、広報活動の充実を図りました。在校生について教育活動はもとより心身ともに健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化しました。

### ■施設設備整備報告（抜粋）

老朽化に伴う改修工事及び設備設置について、緊急性の高いものから順次整備することとし、今年度は生徒が研修に使用する前島研修所内装改修工事を実施しました。部活動活性化及び生徒数増加を図ることを目的に新しいジャンルのスポーツを導入するため、第2記念体育館地下サブアリーナ改修工事を実施いたしました。

装置・設備については、老朽化に伴うエアコンの更新及び自転車競技（BMX）練習用ジャンプ台等を整備しました。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
第2記念体育館 地下サブアリーナ改修工事	4,992
前島研修所 内装改修工事	28,620

主な装置・設備関係

(単位：千円)

事業名	金額
第2実習場エアコン更新	3,168
自転車競技（BMX）練習用ジャンプ台等	4,994